

～ 地域一体の飼料用米振興で畜産物をブランド化 ～

(取組主体名) 山辺町農業再生協議会飼料用米推進部会
(所在地) 山形県東村山郡山辺町

水稻
(飼料用米)
取組事例

組織のプロフィール

平成20年から山辺町、耕種農家、JA山形、町内の養豚業者である(株)山形ピッグファーム、JA全農北日本くみあい飼料(株)、山形県村山総合支庁等が連携して飼料用米生産の取組を推進。

飼料用米の作付面積は20年の約5haから25年は16.5haに拡大。山形ピッグファームにおける飼料用米給与頭数は6千頭となっている。

位置図



1. 取組のきっかけ

山辺町では地域資源活用の観点から、地元の水田で生産した飼料用米を地元の豚に給与できないか模索されてきた。その推進を図るため平成19年に飼料用米推進検討会議を立ち上げて議論を重ね、平成20年に山辺町農業再生協議会飼料用米推進部会が発足し、本格的な取組が開始された。

2. 取組の内容と特徴

町単事業により飼料用米への数量払いを平成22年から措置。
25年の助成単価は契約単収に応じて3段階としている。

550kg以上10円/kg、600kg以上14円/kg、625kg以上17円/kg

多収性専用品種「ふくひびき」による飼料用米の単収は圃場によっては820kg/10aというケースも。

地元需要者との結びつきによって需要に裏付けされた生産拡大に繋がっている。

飼料用米の流通は全農を經由。

肥育した豚は「舞米豚(まいまいとん)」のブランドで町内のほか近隣に流通。県外のイベントへの出展など、消費拡大のための活動に積極的に取り組んでいる。

稲作農家の所得が確保されるとともに、飼料用米を給与した豚の脂質や肉質等が向上して評価が高まっている。また、耕畜連携による循環型農業の推進に寄与している。



飼料用米の収穫



舞米豚のPR(東京)

3. 課題と今後の展望

平成26年度より飼料用米への数量払いが導入されたことで単収向上が課題となっている。

部会においては、関係者が検討を重ねながら、飼料用米栽培農家への技術指導を推進するとともに、イベント等を通じて舞米豚の町外への消費拡大を図っていく。

参考写真



飼料用米のPR資料



舞米豚のロゴマーク



舞米豚の販売

山辺町農業再生協議会飼料用米推進部会組織図

